

## 第32回「海をきれいにする運動」 優秀作品決定

青森県漁業協同組合連合会とむつ湾漁業振興会共催による第32回「海をきれいにする運動」は、むつ湾関係者のご協力により相当の成果を上げて終了致しました。

この運動は、「むつ湾の公害絶滅・漁場環境を図り、資源保護自然環境保全に努め、むつ湾の海をより美しいものとする」ことを目的に、今年も7月20日から10月31日まで実施され、各漁協の協力のもと海岸清掃や海底清掃が行われました。

また、この運動の一環としてむつ湾沿岸に位置する小・中学校の生徒を対象に海をテーマとした作品募集をしたところ、図画154点、ポスター196点、作文57点、標語238点の合計645点の応募があり、専門審査員による厳正な審査により、優秀作品が決定され、表彰式が去る12月25日(土)青森県水産ビルにおいて行われました。

なお、図画の部の優秀作品(小学校6点)については、全漁連主催の第27回「全国海の子絵画展」へ出品されます。

本運動にご協力をいただきました関係者並びに学校関係者に対して厚くお礼申し上げます。来年度も引き続き本運動を展開して参りますので、何卒ご協力をいただきますようお願い致します。

尚、入賞された作品については、青森県水産ビル2階ギャラリーへ展示致しておりますので、ご来館の際は是非ご覧下さるようお願い申し上げます。



作品審査会風景

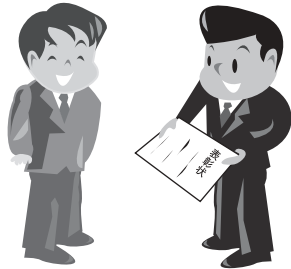
## 第32回「海をきれいにする運動」作品審査結果

### 《図画の部》

[小学校]

賞名	学校名	学年	氏名	備考
特選	久栗坂	2年	蝦名ククリ	第27回全国海の子絵画展出品
準特選	土屋	1年	奥田宥羽	"
"	久栗坂	6年	阿保博隆	"
佳作	"	2年	折館栞奈	"
"	"	4年	阿保雄也	"
"	西田沢	2年	溝江敢太	第27回全国海の子絵画展出品
"	"	"	市川明歩	"
"	第一田名部	"	小島有玄	第27回全国海の子絵画展出品
"	平館	1年	高畑利生	"
"	浦田	"	福田純也	"
"	土屋	"	浜中桂佑	"
"	"	"	加藤拓哉	"
"	油川	3年	小村拓翔	"
"	宿野部	5年	橋本実季	"
"	馬門	6年	柴田貴紀	"

第27回全国海の子絵画展出品 (小学校) 6点



### 《ポスターの部》

[小学校]

賞名	学校名	学年	氏名
特選	油川	6年	田中真美
準特選	平館	1年	木村美紅
"	小湊	6年	佐々木勇輔
佳作	油川	1年	田中拓斗
"	"	3年	蝦名祐樹
"	"	4年	後藤美萌
"	"	5年	福井智子
"	"	"	三上紗緒里
"	浅所	4年	寺嶋和也
"	三■	5年	浜谷祥史
"	"	6年	飯田遥
"	小湊	5年	渡邊由子
"	城ヶ沢	"	齊藤絵里奈
"	奥内	6年	安部真奈
"	"	"	土岐のどか
"	"	"	原田里美
"	第二田名部	"	高橋夏子

[中学校]

賞名	学校名	学年	氏名
特選	角違	3年	齊藤鮎美
準特選	今別	2年	上山雅史
"	三■	"	蠣■ひとみ
佳作	今別	"	東亮汰
"	三■	3年	伊藤萌未

### 《作文の部》

賞名	題名	学校名	学年	氏名
特選	海をいじめちゃダメ!	大湊中	2年	眞部瑞穂
準特選	捨う人でも捨てる人	横浜中	"	目黒絵夢
"	いつまでもきれいな海に	横浜小	6年	杉山あてな
佳作	私たちの海をきれいにするために	大湊中	2年	鎌田みずほ
"	海が海として生きるために	横浜中	3年	澤谷惇史
"	海が海でいられるように	大湊中	2年	新松啓恵
"	海を保つために	大湊中	"	大西里美
"	ぼくができること	第一田名部小	6年	畑中潤

### 《標語の部》

賞名	題名	学校名	学年	氏名
特選	言ってみたい 自信をもって「海きれい!」	大湊中	2年	小館菜摘
準特選	残そうよ 未来にきれいな 砂浜を	造道小	5年	滝本早
"	守ろうよ 海は世界の お友達	第二川内小	6年	丸谷美樹
佳作	大切に なごみの海は 宝物	大湊中	1年	向平理沙
"	捨てません 魚を守る 気持ちから	西田沢小	5年	藤田走波
"	ごみ一つ 捨う心が 地球をすくう	馬門小	6年	戸沢仁美
"	いつまでも 海の健康 守りたい	大湊小	4年	榆木清功
"	青い海 きれいにしよう 育てよう	蛸崎小	3年	大室海波
"	海の青さ その色みんなで 守ろうよ	第二田名部小	6年	長倉美紀
"	青い海 顔を上げたら 青い空	造道小	5年	菅原奈月

受賞された皆さん  
おめでとうございます

第三十二回「海をきれいにする運動」  
 作文の部 特選

## 『海をいじめちゃダメ!』

むつ市立大湊中学校

二年 眞部 瑞穂

四月上旬。私の家から安渡湾を見ると、大勢の人の姿が見える。年に二日間行われる汐干狩りがひいて、たくさんのアサリが取れるこの時期に、私はある事を思う。

「人がたくさん来るのはいいけど、その分ゴミがたくさんでるのではないか。」

日本全国では、たくさんの自然をメインとした行事が行われている。海や山の看板には、いつも「ゴミは各自でお持ち帰り下さい。」と書いてある。しかし、人々は面倒くさい、じゃまだから、といって捨てていく。そのため、海の中には、缶やスナック菓子のから、タバコなどが沈んでいる。その中に入るのが嫌で、私は海に行ったことがない。平気で入っている人は、どういう気持ちなのか知れたかった。

私はある日、友人に、海に入った時にゴミが沈んでいたら、どう思つか尋ねてみた。すると、「私もゴミを捨ててるから平気だよ。」

と、軽い表情で話した。私はその時、友人の顔をなぐりたい気持ちになった。どうしてなのか。

本当はきれいな海を、みんなが楽しめる海なのに。人々がゴミを捨てて、汚しているのだから。

私が小学校の高学年の頃、海岸沿いの道路を、友達と話をしながら歩いてきた。すると、海に向ってゴミを投げている、高校生ぐらいの二、三人がいた。私と友達は、勇気を出して、

「海にゴミを投げたり捨てたりしてはいけません。」

と言った。

すると、高校生は、私達をにらみ、その場を去った。きつと、うるせえとか別にお前らに関係ない、と言おうとしたのだろう。しかし、私達がまだ子供だと思い、にらんだだけなんだ、と私は思った。それから、人に注意することに恐怖感を持った。それ以来、海に物を捨てている人を見ても、注意することはできなかった。

しかし、今の私は違う。海に物を投げたりすることは、世間一般で言われている『いじめ』と、同じようなことではないのか。もし、海が人間だしたら、人にゴミを投げつけてケガをさせているのと同じだ。私はそう思う。だから、物を捨てている人に、

「海をいじめないで。」

と呼びかけたい。捨ててない人にも呼びかければ、きつと海に対してのいじめはなくなるはずだ。汚い海を見るより、きれいで魚がたくさん

暮らしている方が、だれだってさわやかな気持ちになるはずである。

今、この日から、私は海を大切にしていこうという決意をした。私一人だけ気をつけてもダメな事だ。人間全員が気をつけていけば、海は今までにないくらいの輝きを見せてくれる。私は、そうなる日が必ずくると信じている。絶対、魚や貝も笑顔を見せてくれる海。人が笑顔になる海。こういふ海を、みんなで目指していこうよ。協力していけば、きつと結果になるから。

この呼びかけをして、一人、二人、三人と私の決意と同じようになってくれると願っている。それは、まるで、汽車が一つ一つつながっていくように。

